

# 廃バッテリー 対日輸入 7000 トン維持

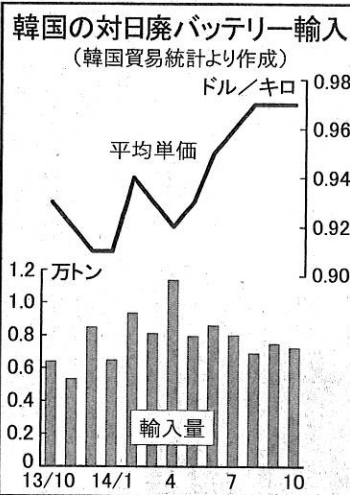
## 韓国 10 月 単価横ばい 97 セン

韓国政府がこのほど発表した貿易統計速報によると、10月の日本からの廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の輸入量は前月比3・1%減の7246トと横ばいで、輸入平均単価は3カ月連続で同値のキロ97セだった。ただし、為替の円安ウォン高が進ん

で、日本側の輸出単価は上昇しており、それが日本国内の市中価格の値上がりにも反映されてきているようだ。鉛のリサイクル原料となる廃バッテリーは、二次精錬業が盛んな韓国の高値買いが続いている。7月までは8000トを超えて月が多かったが、8月以降は月69000ー7500トとやや落ち着いた印象もある。しかし、前年同月と比べると2桁増の高水準だ。

韓国の10月の廃バッテリー輸入総量は3万2731ト。今年3月以降は8月を除いて、月間3万ト台が続いている。これで1ー10月累計の輸入総量は30万9574トとなり、2013年の年間輸入量30万7650トを上回った。

日本以外の主な輸入相手国と数量は、米国4490ト、アラブ首長国連邦(UAE)4113ト、ドミニカ共和国2485ト、スーダン2165ト、ニュージーランド1659ト、豪州1382ト、コンゴ共和国1300ト、トーゴ1247ト。米国からの輸入が回復し、スーダンからの入荷も再び上向いてい



る。ニュージーランドや豪州からの1000ト超の輸入も定着してきた。